

福岡市精神保健福祉センター

平成 27 年度

所 報

目 次

I 福岡市精神保健福祉センター概要

- | | | |
|---|--------------------------|----|
| 1 | 精神保健福祉センターの業務 | P1 |
| 2 | 福岡市精神保健福祉センターの沿革 | P1 |
| 3 | 施設及び職員 | P2 |
| 4 | 精神保健福祉センター所長の関係団体委員等就任状況 | P3 |

II 事業実績

- | | | |
|----|----------------------------|-----|
| 1 | 技術支援事業 | P4 |
| 2 | 教育研修 | P9 |
| 3 | 普及啓発事業 | P12 |
| 4 | 社会復帰支援事業 | P17 |
| 5 | ひきこもり対策推進事業 | P18 |
| 6 | 依存症対策推進事業 | P23 |
| 7 | 自殺対策事業 | P26 |
| 8 | 相談事業 | P35 |
| 9 | 組織育成 | P37 |
| 10 | 関係機関との会議 | P39 |
| 11 | 精神医療審査結果 | P41 |
| 12 | 自立支援医療公費負担及び精神障害者保健福祉手帳の判定 | P42 |
| 13 | 調査研究事業 | P43 |

III 資料

- | | | |
|---|------------------------|-----|
| 1 | 精神保健福祉センター運営要領 | P51 |
| 2 | 福岡市精神保健福祉センター条例・施行規則 | P53 |
| 3 | 福岡市精神保健福祉センター運営協議会設置要綱 | P56 |
| 4 | こころの健康だより | P58 |

I 福岡市精神保健福祉センター概要

- 1 精神保健福祉センターの業務
- 2 福岡市精神保健福祉センターの沿革
- 3 施設及び職員
- 4 精神保健福祉センター所長の関係団体委員等
就任状況

1 精神保健福祉センターの業務

(1) 施設の目的

精神保健福祉分野の専門的中枢機関として、市民の心の健康に関する相談や知識の普及、精神障がい者とその家族への訪問指導や社会復帰の促進、保健所、社会復帰施設等に対しては技術支援や連絡調整を行う。

(2) 根拠法令

[精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）]

第6条 都道府県（平成8年度から指定都市についても規定）は、精神保健の向上及び精神障害者の福祉の増進を図るための機関（以下「精神保健福祉センター」という。）を置くものとする。

(3) 条 例 「福岡市精神保健福祉センター条例」（平成12年11月1日施行）・・・P48参照

(4) 業 務

- ア. 相談指導事業
- イ. 精神障がい者の社会復帰に関する事業
- ウ. 地域支援・訪問指導事業
- エ. こころの健康づくり事業
- オ. 教育研修及び関係機関への技術支援
- カ. 精神障害者保健福祉手帳及び通院医療費公費負担の審査
- キ. 精神医療審査会
- ク. 会議・学会等参加
- ケ. 調査研究

2 福岡市精神保健福祉センターの沿革

平成3年度	「精神保健対策に関する提言」（精神保健対策検討委員会） こころの健康づくりシステムの中核的役割を果たす施設が必要
4年度	精神保健対策協議会（関係局部長会議）センターの役割と機能
5年度	センター構想策定準備委員会
7年度	構想策定小委員会
8年度	基本構想策定委員会「センター基本構想に関する提言」策定
9年度	市精神保健福祉審議会専門部会「センター基本計画に関する提言」
11年度	10月～3月 施設設計委託
12年度	6月～9月 改修工事・設備整備 9月1日 開設準備担当部長発令 10月1日 職員配置 11月1日 開所
14年度	社会復帰担当嘱託員配置
19年度	障害者自立支援法施行に伴い事務職員増
21年度	主査（自殺対策推進担当等）配置
22年度	ひきこもり成年地域支援センター（よかよかルーム）開設
25年度	副所長配置 自殺予防情報センター開設（自殺対策係長、嘱託員配置） 事務所移転（あいれふ6階より3階へ）

[国の動向]
H5：「障害者基本法」成立（精神障がい者を障がい者として位置づけ）
H7：「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」への改正
H8：「障害者プラン」策定
H9：「精神保健福祉法」制定
H12：「精神保健福祉法」改正
H18：「障害者自立支援法」施行
H25：「総合支援法」施行

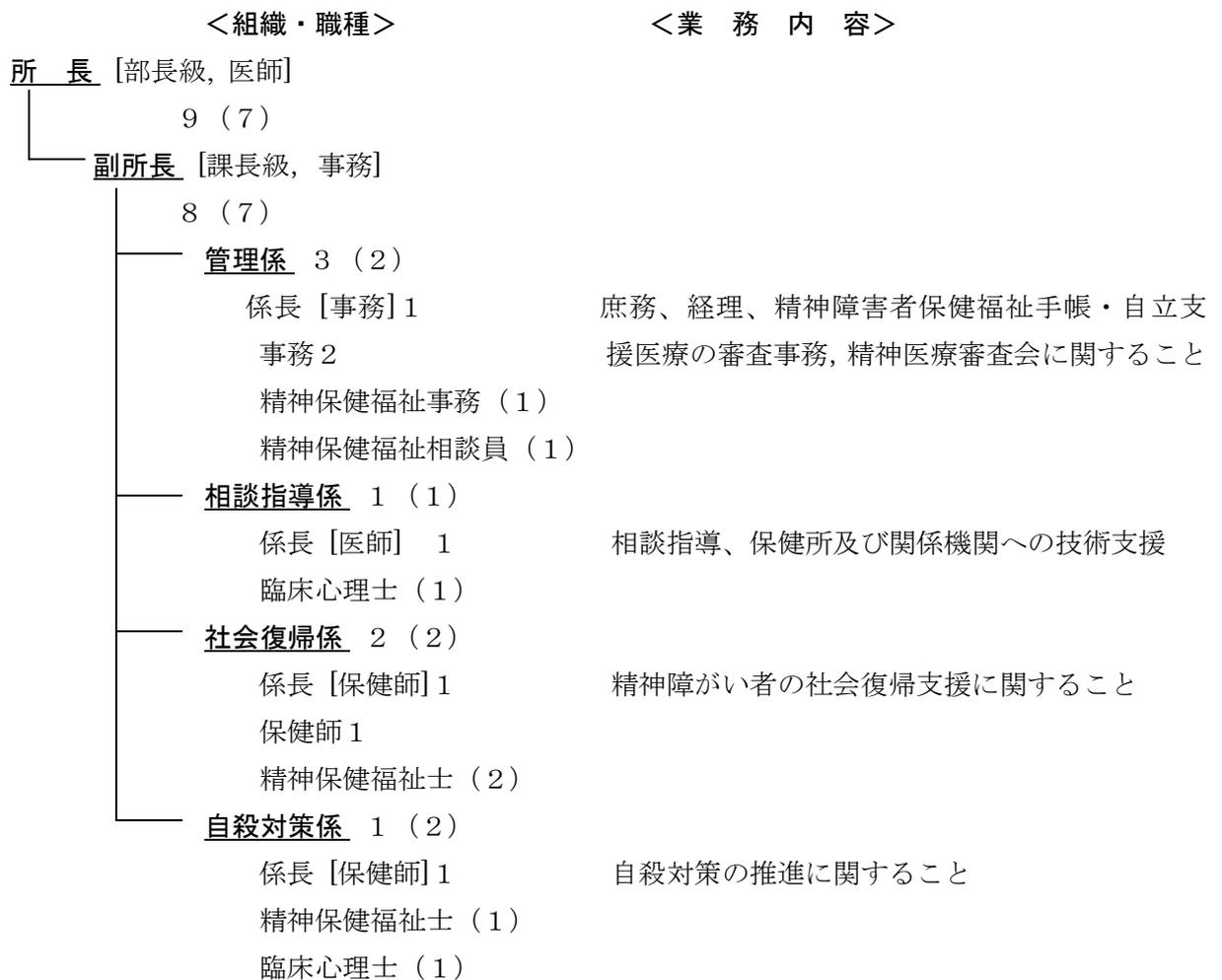
3 施設及び職員

(1) 施設の概要

- 位 置 福岡市中央区舞鶴2丁目5-1
あいれふ3階西側
- 名 称 福岡市精神保健福祉センター
- 専用面積 約369.09㎡
- 室 名 相談室、電話相談室、
事務室、所長室、ミーティングルーム
よかよかルーム（ひきこもり成年地域支援センター）、倉庫
自殺予防情報センター

(2) 職員の組織及び一覧

福岡市精神保健福祉センターの組織・体制・(平成28年8月1日現在)



* () は嘱託員数で外数

4 精神保健福祉センター所長の関係団体委員等就任状況

番号	関係団体名	27年度	28年度	事務局（所管課）
1	福岡県精神保健福祉協会 理事	○	○	福岡県精神保健協会 (保健福祉局保健予防課)
2	福岡県地域精神保健協議会福岡ブロック協議会 委員	○	○	福岡県地域精神保健協議会 (保健福祉局保健予防課)
3	メンタルヘルス対策推進協議会 委員	○	○	総務企画局コンプライアンス・安全衛生課
4	職員衛生管理審査会 委員	○	○	総務企画局コンプライアンス・安全衛生課
5	福岡市学校精神保健協議会 委員	○	○	教育委員会健康教育課
6	福岡市男女共同参画推進協議会幹事会 幹事	○	○	市民局男女共同参画課
7	福岡市発達障がい者支援協議会 委員		○	こども未来局こども発達支援課
8	福岡市教職員身体検査審査会 委員	○	○	教育委員会教職員課
9	福岡市障がい者就労支援センター運営協議会 委員	○	○	福岡市福祉事業団 (保健福祉局障がい者在宅支援課)
10	福岡市立病院機構職員衛生管理審査会 委員	○	○	福岡市立病院機構
11	特別児童扶養手当に係る精神障害判定 嘱託医	○	○	こども未来局こども家庭課
12	福岡市民生委員推薦会 委員	○	○	保健福祉局福祉・介護予防課
13	認知症初期集中支援検討会議 委員		○	保健福祉局地域包括ケア推進課
14	福岡県摂食障害者対策推進会議 副会長		○	福岡県保健医療介護部健康増進課
15	福岡県精神保健福祉審議会 委員		○	福岡県保健医療介護部健康増進課
16	全国精神保健福祉センター長会 常任理事	○	○	一般社団法人 日本公衆衛生協会

Ⅱ 事業実績

- 1 技術支援事業
- 2 教育研修
- 3 普及啓発事業
- 4 社会復帰支援事業
- 5 ひきこもり対策推進事業
- 6 依存症対策推進事業
- 7 自殺対策事業
- 8 相談事業
- 9 組織育成
- 10 関係機関との会議
- 11 精神医療審査結果
- 12 自立支援医療公費負担及び精神障害者保健福祉手帳の判定
- 13 調査研究事業

1 技術支援事業

保健福祉センターとの合同訪問や処遇困難事例の対応等についての事例検討、関係機関・団体が実施する精神保健福祉に関する研修会等へ当センターより職員の派遣を行っている。

(1) 保健福祉センター職員と精神科医との合同訪問指導事業

保健福祉センターの相談ケースで、精神科の医療未受診者または治療中断者に対して、保健福祉センター職員と当センター医師が合同訪問を行っている。

	東	博多	中央	南	城南	早良	西	合計
実件数	0	0	0	0	0	0	0	0
延件数	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 精神科医によるこころの健康相談への支援

月1回、保健福祉センターが実施するこころの健康相談に相談医として従事している。

	東	博多	中央	南	城南	早良	西	合計
回数	10	0	10	8	0	10	9	46
件数	19	0	17	14	0	21	10	81

※博多区と城南区は相談医従事の割り振りなし。

(3) 事例検討会

関係各所からの依頼等により、精神障がい者の家庭訪問事例や処遇困難事例の検討会に当センター医師が参加し、治療や対応等に関する助言指導を行っている。

① 各区との検討会

	会議名	月 日	内 容
東	精神障がい者 訪問事例検討会	3月 4日 (金)	「家庭訪問事例検討 20ケース」 精神保健福祉センター医師
博多	精神障がい者 訪問事例検討会	2月15日 (月)	「家庭訪問事例検討 17ケース」 精神保健福祉センター医師
中央	精神障がい者 訪問事例検討会	1月 5日 (火)	「家庭訪問事例検討 20ケース」 精神保健福祉センター医師
南	精神障がい者 訪問事例検討会	3月 2日 (水)	「家庭訪問事例検討 14ケース」 精神保健福祉センター医師
城南	精神障がい者 訪問事例検討会	1月22日 (金)	「家庭訪問事例検討 24ケース」 精神保健福祉センター医師
早良	精神障がい者 訪問事例検討会	2月17日 (水)	「家庭訪問事例検討 27ケース」 精神保健福祉センター医師
西	精神障がい者 訪問事例検討会	3月17日 (木)	「家庭訪問事例検討 9ケース」 精神保健福祉センター医師

② 関係機関との検討会

会議名	月 日	内 容
えがお館ケース検討	5月 1日(金)	薬物事例に関するケース検討
共同生活支援住宅さいかい 個別支援ケア会議	5月14日(木)	利用者への個別支援に関するケア会議 (2ケース)
共同生活支援住宅さいかい 個別支援ケア会議	2月18日(木)	利用者への個別支援に関するケア会議 (2ケース)
保護課ケースに関する協議	7月 1日(木)	保護課依存症ケースについて
福岡大学病院 GID 症例検討会	10月13日(水)	G I D症例検討
福岡大学病院 GID 症例検討会	1月12日(火)	G I D症例検討

(4) 講師派遣

① 関係課からの依頼による講演

	日時	主催	内容	参加数	対象
市	4月13日(月)	人材育成課	新規採用職員研修 「精神障がい者の理解のために、 障がいのある方々との体験交流」 精神保健福祉センター保健師	323	新規採用 職員
	10月 6日(火)			37	
	4月28日(火)	保健予防課	「措置診察について」 精神保健福祉センター医師	10	健康課精 神保健福 祉係新任 職員
	4月30日(木)			10	
	6月18日(木)	地域医療課	公衆衛生医師専門研修 「精神保健福祉について」 精神保健福祉センター医師	5	新規採用 医師等
東	10月 2日(金)	健康課	講演「うつ病ってどんな病気？」 精神保健福祉センター医師	9	家族など
	10月 5日(月)	健康課	講演「統合失調症の症状と治療」 精神保健福祉センター医師	12	家族など
博多	10月15日(木)	健康課	講演「生活習慣病とうつ病 ～心が元気になる暮らし方」 精神保健福祉センター医師	12	市民
中央	6月10日(水)	健康課	講演「統合失調症の症状と治療」 精神保健福祉センター医師	20	家族など
南	10月27日(火)	保護課	講演「精神障がいの理解」 精神保健福祉センター医師	16	職員
	10月29日(木)	健康課	講演「生活習慣を見直してうつ予防」 精神保健福祉センター医師	8	関心のある方
	平成28年 1月28日(木)	健康課	講演「精神科の薬の話」 精神保健福祉センター医師	3	家族

城南	2月23日(火)	健康課	講演「精神科の薬の話」 精神保健福祉センター医師	18	家族
早良	8月6日(木)	健康課	講演「統合失調症の症状と治療」 精神保健福祉センター医師	7	家族
	平成28年 2月12日(木)	地域保健福祉課	講演「福岡市精神保健福祉センターに おけるひきこもり支援について」 精神保健福祉センター保健師	50	民児協 幹事

② 他機関からの依頼による講演

日時	主催	内容	参加数	対象
4月17日(金)	MOA インター ナショナル	「発達障がいについて」 精神保健福祉センター 医師	30	MOA 会員
7月21日(火)		「認知症とその予防」 精神保健福祉センター 医師	30	
9月4日(金)		精神保健福祉センター 医師	30	
5月15日(金)	あいあいセンター	福岡コージネット研修会 「精神保健福祉手帳で利用できる福祉 サービス」 精神保健福祉センター 保健師	150	高次脳機能 障がい支援 に関わる関 係者
5月25日(月)	(株) 福岡ロード サービス	「アルコール依存症防止と お酒との付き合い方」 精神保健福祉センター 医師	30	料金徴収業 務に従事す る職員
5月26日(火)			30	
5月27日(水)			30	
6月30日(火)	福岡市中心障がい 福祉センター	ホームヘルプスキルアップ研修 「精神障害者保健福祉手帳について」 精神保健福祉センター 保健師	45	ホームヘルプサ ービス事業 所、ホーム ヘルパー
10月2日(金)		ホームヘルプスキルアップ研修 「精神障がい者に関わる制度全般に ついて」 精神保健福祉センター 保健師	40	
6月18日(木)	福岡労働局	総合労働相談員研修 「メンタルヘルス上の問題を抱える 相談者への対応」 精神保健福祉センター 医師	20	総合労働 相談員
6月19日(金)			20	
6月6日(土)	地域活動支援 センター「翼」	「利用できる制度～自立支援 医療と精神保健福祉手帳について」 精神保健福祉センター 保健師	25	翼関係者
7月23日(木)	日本司法 支援センター	法テラス常勤弁護士研修会 「精神障がいについて」 精神保健福祉センター 医師	30	弁護士
7月30日(木)	福岡県地域定着支援 センター	「精神障がいの理解と対応」 精神保健福祉センター 医師	9	職員

6月29日(月)	梅香寮	「SMARPP」 ・覚醒剤の身体、脳への影響 ・依存症薬物がもたらす影響 精神保健福祉センター 医師	7	依存症者 本人
11月5日(木)			10	
平成28年 1月21日(木)			7	
3月2日(火)			5	
8月18日(火)	地域医療課	「福岡市の依存症支援」について 精神保健福祉センター 医師	18	薬物乱用 防止推進 協議会委 員
9月9日(水)	福岡県弁護士会	司法修習生研修会 「精神障がいについて」 精神保健福祉センター 医師	30	司法 修習生
10月19日(月)	筑紫丘高校	薬物乱用防止教育 精神保健福祉センター 医師	1,350	高校1年 生、教員
10月30日(金)	いこいの郷おざさ	「生活習慣を見直してうつ予防」 精神保健福祉センター 医師	28	民生委員、 ケアマネ、いき いきセンタ ー職員
11月12日(木)	あいにふ研修室	PDC研修会 「精神保健福祉センターの 業務について」 精神保健福祉センター 医師	20	PDC会員
平成28年 2月8日(月)	福岡市立大原小学校	薬物乱用防止教育 精神保健福祉センター 医師	70	小学6年生 と教諭
3月10日(木)	福岡保護観察所	薬物依存引受人等講習会 精神保健福祉センター 医師	30	引受人、保 護司

③ 勤労者のメンタルヘルスに関する講演

職場のメンタルヘルス：職場のメンタルヘルスの講師紹介も行っている。

日時	主催	内容	参加数	対象
10月28日(水)	航空交通気象 センター	「職場のメンタルヘルスについて」 精神保健福祉センター臨床心理士	15	職員
12月16日(水)	消防局	グループミーティング実践講習会 「惨事ストレスについて」 精神保健福祉センター臨床心理士	38	職員

④ 出前講座

福岡のまちづくりを市民とともに進めるための取り組みの一つとして、市職員が地域に伺い、市の取り組みや暮らしに役立つ情報などを説明するもの。

日時	主催	内容	参加数	対象
7月28日(火)	ふれあい・よか農園	「精神障がいの理解と対応」 精神保健福祉センター医師	7	職員
9月29日(火)	ふくおか福祉サービス協会	「精神障がいの理解と対応」 精神保健福祉センター医師	38	職員
9月30日(水)	ふくおか福祉サービス協会	「精神障がいの理解と対応」 精神保健福祉センター医師	179	職員
10月16日(金)	ニチイ学館	「精神障がいの理解と対応」 精神保健福祉センター医師	18	職員
11月18日(水)	市民勉強会	「自殺対策について」 精神保健福祉センター保健師	14	市民
12月17日(木)	ゲストーションにしこう 城南	「精神障がいの理解と対応」 精神保健福祉センター医師	17	職員
平成28年 2月4日(木)	養護老人ホーム 田尻苑	「精神障がいの理解と対応」 精神保健福祉センター医師	15	職員
2月24日(水)	春吉中学校	「自殺対策について」 精神保健福祉センター保健師	20	教員・保護者など
3月4日(木)	福岡市立博多障がい者フレンドホーム	「精神障がいの理解と対応」 精神保健福祉センター医師	13	職員

2 教育研修(人材育成)

精神保健福祉業務に従事する職員等の技術水準の向上を図るため、日常の相談業務等に必要な基礎知識、専門知識等の習得を図る各種研修会を実施している。また、ピアスタッフのスキルアップ研修も実施している。

(1) 研修会

① 精神保健福祉業務研修

【対象】各区保健福祉センター健康課精神保健福祉係転入職員等

【場所】あいにふ研修室

日時	内容	参加数
平成27年 5月27日(水) 13:30~17:00	1 「精神保健福祉業務の概要」 保健予防課精神保健福祉係 2 「措置入院関係等」 保健予防課精神保健福祉係 3 「精神障がい者の地域生活支援について」 障がい者施設支援課施設支援係 4 「精神障がい者の在宅福祉サービスについて」 障がい者在宅支援課在宅サービス係 5 「医療保護入院関係等」 精神保健福祉センター管理係 6 「自立支援医療・手帳交付事務」 精神保健福祉センター管理係	16

② 精神保健福祉基礎研修

精神保健福祉の経験が少ない職員及び関係者を対象に基礎研修を開催。

【対象】社会復帰施設や精神科病院および診療所、行政などの関係職員

【場所】あいにふ講堂

日時	内容	参加数
平成27年 6月12日(金) 14:00~16:30	1 「精神疾患の理解」 精神保健福祉センター医師 宇佐美貴士氏	139 行政機関 20 社会復帰施設 21 医療機関 6 居宅介護事業所 80 その他 12
6月24日(水) 14:00~16:30	2 「精神障がい者の理解と対応」 地域活動支援センター「ぷらっと」施設長 鷹尾 和顕氏	123 行政機関 21 社会復帰施設 31 医療機関 16 居宅介護事業所 47 その他 8

③ 精神保健福祉従事者専門研修（地域移行支援に関する従事者研修）

【対象】社会復帰施設職員，精神科病院および診療所職員，行政職員などの関係職員

【場所】あいれふ講堂

日時	内容	参加数
平成27年 9月10日(木) 14:00～16:30	<p>「在宅で使える障がい福祉サービスの概要」 障がい者在宅支援課 在宅サービス係長 伊藤 政文氏</p> <p>「相談支援事業の概要」 障がい者在宅支援課 相談支援係長 山田 隆行氏</p> <p>「障がい福祉サービスの実際～実践をとおして～」 東区精神障がい者相談支援センター所長 大畑 邦広氏</p> <p>香椎療養所 精神保健福祉士 大田 和史氏</p>	<p>72</p> <p>行政機関 15 医療機関 11 相談支援機関 26 いきいきセンター 17 その他 3</p>
平成28年 3月1日(火) 13:30～16:00	<p>「長期入院患者の地域移行支援について」 障がい者基幹相談支援センター 松野 浩二氏</p> <p>東区精神障がい者相談支援センター所長 大畑 邦広氏</p> <p>「事例を通して」 倉光病院 精神保健福祉士 鶴嶋 亜紀氏 西区精神障がい者相談支援センター 専任コーディネーター 古崎 泰弘氏</p> <p>グループワーク</p>	<p>66</p> <p>行政機関 13 医療機関 15 訪問看護 15 相談支援機関 20 いきいきセンター 3</p>

④ アディクション関連問題研修会

福岡市精神保健福祉センター・福岡県精神保健福祉センターと福岡県精神医療センター太宰府病院による持ち回りで年3回開催している。

(夏期：市精神保健福祉センター，秋期：県精神保健福祉センター，冬期：県立精神医療センター太宰府病院)

【対象】アルコール・薬物関連問題の相談等にに従事する者など【場所】あいれふ講堂

日時	内容	参加数
平成27年 7月29日(水) 14:30～16:30	<p>「雁の巣病院における薬物依存症治療の最前線 ～事例から学ぶ～」</p> <p>優なぎ会 雁の巣病院 精神科医師 栗田 晋氏 精神保健福祉士 稲葉宣行氏</p>	<p>95</p> <p>行政機関 39 社会復帰施設 18 医療機関 8 学校 9 司法・警察 21</p>

⑤ 自殺対策事業における研修 ※ 7で掲載

7 かかりつけ医うつ病対応力向上研修

⑥ その他

ア ピアスタッフスキルアップ研修

地域活動支援センター等に勤務しているピアスタッフを対象に、支援活動に際して必要な知識や技術を学ぶことを目的に、平成20年度より開催している。

【対象】 地域活動支援センター I 型やグループホーム等に勤務しているピアスタッフ、その他の支援者

【場所】 あいれふ研修室

日時	内容	参加数
平成28年 2月16日(火) 14:00~16:00	「障がい者の就労の現状と支援（課題）について」 福岡市障がい者就労支援センター 副所長 石井 浩明氏 グループワーク	22
3月 7日(月) 14:00~16:00	「働く人のメンタルヘルス」 うめづメンタルケアセンター 理事長 梅津 和子氏	20
	参加数合計	42

(2) 学生実習等の受け入れ

① 学生実習

学校名	期間	人数
福岡県立大学	8月31日~9月18日	1
I L Pお茶の水医療福祉専門学校		1
九州産業大学		1

② 施設見学

学校名など	日時	内容
福岡女学院大学 大学院 臨床心理学専攻 大学院生	8月31日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉センターの概要と施設見学 ・心理士の業務 ・福岡市ひきこもり成年地域支援センター（よかよかルーム）について

3 普及啓発事業

精神障がいについて正しく理解してもらうために、啓発交流事業や講演会及び家族教室などを開催し、一般市民への普及啓発を行っている。また、センター機関誌として「こころの健康だより」を年2回発行している。(発行時期変更により平成27年度内の発行は1回)

(1) 精神保健福祉啓発交流事業

① ハートメディア2015～みんなでつながる・こころもつながる～

広く市民へ精神障がいについての理解を促すこと、また、当事者の表現の機会をつくることを目的に平成13年度より開催している。

【主催】精神保健福祉啓発交流事業「ハートメディア」実行委員会

【対象】市民や当事者、家族、支援者 【場所】あいれふ

	日時	内容	来場数	
あ い れ ふ	平成27年 10月21日(水) ～23日(金)	○「心で創る作品展」 精神障がいの者の絵画や手芸、作文などの作品展示 施設数： 37施設 作品数： 226点	1,075	のべ 1,325
		○「ふれあいコンサート」(10月23日) 司会：リプル 山口氏、心の春希望 山崎氏 出演：当事者と支援者含め 6組		
		○映画上映会「シンプル・シモン」(10月22日) ○「バザー」 20施設参加		
		○「講演会」(10月21日)：福岡県作業療法協会と共催 「子どもと大人の発達障がいの理解」 講師：福島学院大学副学長・医学博士 星野 仁彦氏	250	
	実行委員会	4回開催		

② 第15回 こころの病のピアサポート講座～地域を一緒に作るばい～

精神障がい者等を対象に、同じ体験をもつ仲間がお互いに支え合っていくための講座。当事者を中心とした実行委員会にて内容を検討して開催している。

【主催】精神保健福祉啓発交流事業「ピアサポート講座」実行委員会

【対象】当事者、関心のある方 【場所】あいれふ10階 講堂

	日時	内容	参加数
1	平成27年 9月4日(金) 13:30～16:30	1. 地域活動支援センターの紹介 そよかぜのまち(中央区), リブル(城南区) あすなろ(西区) 2. 講演「福祉サービス利用にあたっての計画相談について」 特定相談支援事業所 ことのは 三宅 良幸氏 3. グループピアカウンセリング<クローズ>	61
2	9月14日(月) 13:30～16:30	1. 地域活動支援センターの紹介 ピアひがし(東区), 心の春 希望(南区) 2. 講演「WRAPから学ぶピアサポート」 久留米大学文学部社会福祉学科講師 坂本 明子氏 3. グループピアカウンセリング<オープン>	52
3	10月5日(月) 13:30～16:30	1. 地域活動支援センターの紹介 ぷらっと(早良区), サンサンはかた(博多区) 2. シンポジウム「ピアの活躍～仲間だからできること～」 各地で活躍している仲間たち 3. グループピアカウンセリング<クローズ>	60
参加数合計			173
実行委員会	当事者を中心とした実行委員会において、企画から検討、開催まで行っている。		7回
おしゃべり会	「ピアサポート講座」参加者を対象にした座談交流会		3回

③ 第24回「こころの病」理解のために ～みんなの集い～

精神障がい者、精神科医師、精神保健福祉士、社会復帰施設職員等からなる「みんなの集い実行委員会」で企画・実施している。

【主催】みんなの集い実行委員会(福岡市精神保健福祉協議会)

【対象】市民 【場所】西市民センターホール

日時	内容	参加数
平成28年 2月13日(土) 13:00～16:30	第1部: 基調講演「コントと講演」 講師: 松本ハウス(お笑い芸人コンビ) 第2部: スピークアウト・シンポジウム 「げんき」について当事者の方たちの発表 第3部: ステージアトラクション ピュアハート	250人
実行委員会	3回出席(現地打ち合わせ含む)	

※実行委員として精神保健福祉センター職員が従事。

(2) 心の健康づくり等の市民講演会

① うつ病市民啓発講演会 (7で再掲)

【対象】市民 【場所】あいでふ10階ホール

日時	内容	参加数
平成27年 7月9日(木) 13:30~15:30	講演 「眠りで気づくこころのサイン～心地よい目覚めは眠りから～」 久留米大学医学部神経精神医学講座 教授 内村 直尚氏	130

② ひきこもり市民啓発講演会 (5で再掲)

【対象】市民 【場所】あいでふ講堂

日時	内容	参加数
平成28年 2月18日(木) 14:00~16:00	「ひきこもりの理解と早期介入」 九州大学病院 精神科神経科 医師 加藤 隆弘氏	67

③ 依存症市民講演会 (6で再掲)

【対象】市民、関係者 【場所】あいでふ講堂

日時	内容	参加数
平成27年 9月2日(水) 14:00~16:00	「ギャンブル依存症とは ～人はなぜギャンブルをやめられないのか?～」 倉光病院 副院長 上村 敬一氏 「回復施設からのメッセージ」 ジャパンマック福岡 施設長 岡田 昌之氏	108

④ 働く若者のための認知行動療法講演会開催 (7で再掲)

【対象】30歳代までの若者, その他関係者

【場所】あいでふホール (福岡市中央区舞鶴2丁目)

日時	内容	参加数
平成27年 10月20日(火) 14:00~16:30	講演 「コミュニケーション・スキルアップと じぶんメンテナンス」 洗足ストレスコーピング・サポートオフィス 所長 伊藤 絵美氏	182

⑤ 身近な自殺問題 ～福岡市フォーラム2016～ (7で再掲)

⑥ メンタルヘルス対策セミナー (7で再掲)

(3) 家族支援等に関する教室

① うつ病家族教室 (7で再掲)

【対象】 うつ病患者を抱える家族 【場所】 あいれふ第2研修室

【時間】 13時30分～15時30分

	日 程	内 容	参加数
1	10月15日(木)	「うつ病について」 九州大学病院 精神科医 三浦 智史氏	23
2	10月28日(水)	「家族の対応方法とストレス対処法について」 九州大学病院 臨床心理士 堀井 麻千子氏	12
参加人数 合計			35

② ひきこもり家族教室 (5で再掲)

【対象】 ひきこもりの問題を抱える家族 【場所】 あいれふ研修室など

【時間】 14時00分～16時00分

	月 日		内 容・講師	参加数	
	前期	後期		前期	後期
1	5/13	11/25	講話「ひきこもり概論」 九州大学病院 精神科医師	11	12
2	6/10	12/9	「ポジティブなコミュニケーションを身につける」 精神保健福祉センター 臨床心理士	12	10
3	7/8	1/13	「行動の分析・望ましい行動を増やす」 精神保健福祉センター 臨床心理士	12	8
4	8/12	2/10	「先回りをやめ、望ましくない行動を減らす」 精神保健福祉センター 臨床心理士	12	9
5	9/9	3/9	「楠の会(家族会)の話・まとめ」 福岡「楠の会」 精神保健福祉センター 臨床心理士	11	8
参加人数 合計				58	47

③ 薬物依存問題を抱える家族のための教室 (6で再掲)

【対象】 薬物依存問題を抱える家族 【場所】 あいれふ第2研修室

【時間】 14時00分～16時00分

	月 日		内 容・講師	参加数	
	前期	後期		前期	後期
1	5/20	11/18	「薬物依存症とは・交流会」 精神保健福祉センター 精神科医師 精神保健福祉士	2	5
2	6/17	12/16	「依存症者の心理と家族の対応」 雁の巣病院 精神保健福祉士	4	3
3	7/15	1/20	「家族の対応」 精神保健福祉センター 精神保健福祉士	5	4

4	8/19	2/17	「回復のために必要なもの」 雁の巣病院 精神保健福祉士 精神保健福祉センター 精神保健福祉士	6	4
5	9/16	3/16	「薬物依存症からの回復」「ふりかえり」 NPO 法人DARCスタッフメンバー 精神保健福祉センター 精神保健福祉士	5	2
参加人数 合計				22	18

④ アルコール家族教室 (6で再掲)

【対象】 アルコール問題を抱える家族 【場所】 あいれふ研修室

【時間】 14時00分～16時00分

	月 日	内 容	参加数
1	6月3日(水)	アルコール依存症とは	6
2	7月1日(水)	アルコール依存症者の心理	6
3	8月5日(水)	家族の心理	5
4	9月2日(水)	アルコール依存症からの回復	4
5	10月6日(火)	酒なしの生活術	4
6	11月4日(水)	共依存とは	4
7	12月2日(水)	アダルトチルドレンとは(その1)	6
8	H28年1月6日(水)	アダルトチルドレンとは(その2)	6
9	2月3日(水)	まとめ	6
参加人数合計			47

※講師はいずれも雁ノ巣病院 精神保健福祉士

(4) その他(Ⅲ資料参照)

① 精神保健福祉センター 「こころの健康だより」の発行

第45号(8月) 医療機関・社会復帰施設・公民館等の関連施設・民児協・行政機関等
約700箇所へ配付

② 広報媒体貸出

①うつ病予防普及啓発パネル貸出(平成22年度開始)…実績:保健福祉センター6箇所に貸出
うつ病の予防や早期発見、早期対応を目的にうつ病に関する知識を幅広く周知するための
パネルを作成しその貸出しを実施している。

各区の健康フェアやうつ病予防教室、うつ病講演会等で掲示。

②DVD・書籍貸出…実績:病院など7箇所に貸出

4 社会復帰支援事業

精神障がい者社会適応訓練事業や関係機関への技術支援等をおおして関係機関と連携を図りながら精神障がい者の社会復帰を支援している。

(1) 精神障がい者社会適応訓練事業

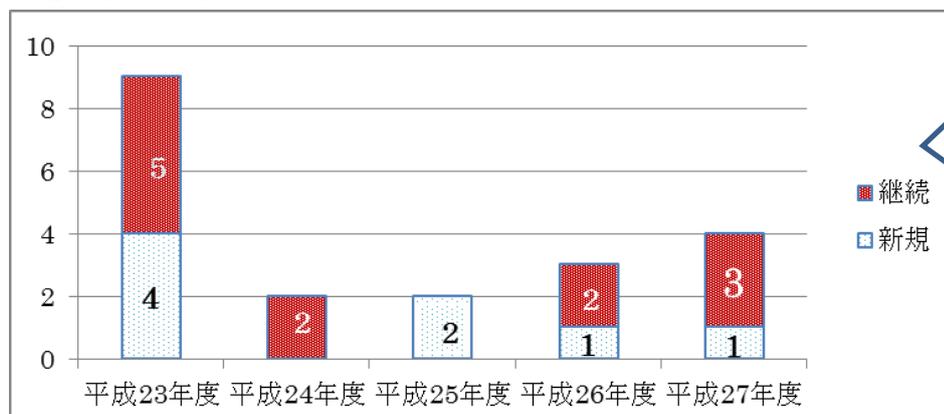
①運営協議会 平成28年 3月25日(金)開催 参加 13名

②職親事業所・訓練生の年次推移

	職親登録数	受入職親数	訓練生実数	新規訓練者数
平成23年度	15	※5	9	4
平成24年度	15	1	2	0
平成25年度	15	2	2	2
平成26年度	14	2	3	1
平成27年度	14	※3	4	1

※県域1含む

③訓練生の推移



24年度から訓練生は大幅に減少。雇用型はなし。

平成26年度から利用者が増加傾向になったものの、平成27年度に終了2名、中断1名があった為、平成28年3月末現在は1名が利用中。

(2) 会議など

① 雇用移行推進連絡会議 ※労働局主催

平成27年6月3日(水)

② 福岡市障がい者就労支援センター運営委員会 ※障がい者就労支援センター主催

平成27年6月19日(金)

5 ひきこもり対策推進事業

ひきこもりに関する啓発を目的とした市民講演会や家族を対象にした家族教室、関係機関の連携会議を開催。また、成人期ひきこもり地域支援センター事業を行っている。

(1) ひきこもり者を抱える家族及び当事者への支援

① 家族支援

ひきこもり家族教室（3の再掲）

【対象】 ひきこもりの問題を抱える家族 【場所】 あいれふ研修室など

【時間】 14時00分～16時00分

	月 日		内 容・講師	参加数	
	前期	後期		前期	後期
1	5/13	11/25	講話「ひきこもり概論」 九州大学病院 精神科医師	11	12
2	6/10	12/9	「ポジティブなコミュニケーションを身につける」 精神保健福祉センター 臨床心理士	12	10
3	7/8	1/13	「行動の分析・望ましい行動を増やす」 精神保健福祉センター 臨床心理士	12	8
4	8/12	2/10	「先回りをやめ、望ましくない行動を減らす」 精神保健福祉センター 臨床心理士	12	9
5	9/9	3/9	「楠の会（家族会）の話・まとめ」 福岡「楠の会」 精神保健福祉センター 臨床心理士	11	8
参加人数 合計				58	47
参加希望者面接後の処遇検討会				1回	

② ひきこもり研究会

ひきこもりに関する医療機関との連携を図るとともに、支援者の対応力向上を目的に開催している。

日 時	内 容	参加数
平成28年 1月28日（木） 19:00～20:30	「ひきこもり診療の現状について」 九州大学病院精神科神経科 医師 加藤 隆弘氏	29

(2) 普及啓発

① ひきこもり市民啓発講演会（3の再掲）

【対象】 市民、行政機関、関係機関など 【場所】 あいれふ講堂など

日時	内容	参加数
平成28年 2月18日（木） 14:00～16:00	「ひきこもりの理解と早期介入」 九州大学病院精神科神経科 医師 加藤 隆弘氏	67

(3) 連携・会議など

日 時	内 容
6月18日(木)	ひきこもり地域支援センター実務者等連絡会
9月17日(木)	ひきこもり地域支援センター実務者等連絡会
9月 3日(木)	福岡市ひきこもり成年支援者等ネットワーク会議 (主催：福岡市ひきこもり成年地域支援センター)
3月11日(金)	
11月11日(水)	思春期相談関連懇話会 (主催：子ども総合相談センター)
3月 9日(水)	
4月17日(金)	福岡市ひきこもり成年地域支援センター コーディネーター会議及び事例検討
5月29日(金)	
6月25日(木)	
7月17日(金)	
8月21日(金)	
11月15日(金)	
12月18日(金)	
1月29日(金)	
2月23日(火)	

(4) 成人期ひきこもり地域支援センター事業

成人期ひきこもり者の支援を充実させるため、支援の核となる「ひきこもり地域支援センター」を設置し、相談支援体制の確保を推進し、ひきこもり本人の自立を図る。(平成22年10月開設)

① 開設日

月～金曜日：午前10時～午後5時（祝祭日・年末年始を除く）

② 開設場所

あいれふ3階

③ 事業対象者

福岡市内に居住する概ね20歳以上のひきこもり本人又はその家族など

④ 配置スタッフ

ひきこもり支援コーディネーター2名 事務補助1名

(職種) 心理士・臨床心理士・社会福祉士・産業カウンセラーなど

⑤ 事業運営

NPO法人JACFAに事業委託

⑥ 事業内容

ア 相談事業

対象者からの電話、来所(面接)又は必要に応じて訪問等の相談に応じ、適切な助言を行うとともに、対象者の相談内容等に応じて、医療・保健・福祉・教育・労働等の適切な関係機関へつなぐ。

(7) 相談実績

延人数(実数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
①電話相談	75	70	80	73	66	78	78	80	64	58	76	71	869
②来所相談	88	71	89	96	73	66	80	86	69	73	78	82	951 (172)
③訪問相談等	13	5	13	11	15	10	7	11	16	8	10	9	128 (41)
④その他 (メール・手紙など)	2	1	1	0	1	0	0	1	0	1	4	1	12 (10)
合計	178	147	183	180	155	154	165	178	149	140	168	163	1960 (223)

(イ) 相談者内訳

延人数

	本人	親	兄弟姉妹	その他親族	友人知人	関係機関	その他	不明	合計
①電話相談	434	317	17	21	10	80	3	5	887
②来所相談	524	551	16	19	2	29	4	0	1,145
③訪問相談等	114	76	7	1	0	39	0	0	237
④その他 (メール・手紙など)	12	4	0	0	0	1	0	0	17
合計	1,084	948	40	41	12	149	7	5	2,286
割合	47.4%	41.5%	1.8%	1.8%	0.5%	6.5%	0.3%	0.2%	100%

イ 情報発信

ひきこもりに関する普及啓発を図り、センター利用及び地域の関係機関・関係事業に係る広報・周知を行うなど、ひきこもり対策に係わる情報発信に努める。

- ①ちらしの作成及び配付(相談案内ちらし、情報紙など)
- ②ホームページの更新、ブログの作成・更新。

ウ 関係機関との連携体制の構築

対象者の相談内容に応じた適切な支援を行うことができるよう、医療・保健・福祉・教育・労働等の関係機関からなる支援者ネットワーク会議を開催し、各機関間で恒常的な連携が確保できるように努める。

【福岡市ひきこもり支援者等ネットワーク会議】

日程	内容	参加団体
9月3日(木) 15:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・よかよかルーム活動実績報告 ・よかよかルームケース報告 ・情報交換 	16団体24名
平成28年 3月11日(金) 18:30～20:30	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者自己紹介 ・よかよかルーム事例報告 ・事前アンケート質問への回答及び情報交換 	14団体28名

【参加団体20団体】

- ①支援者団体～福岡「楠の会」／NPO法人JACFA／とまり木
- ②思春期支援～市こども総合相談センター
- ③就労支援～福岡県若者サポートステーション／ハローワーク福岡中央／就労移行支援事業所スプライフ／就労移行支援事業所ミュールーム／就労移行支援事業所ウェルビー
- ④医療機関・大学～九州大学精神神経科／ゆうきあさなこころのクリニック
- ⑤精神障がい者関係施設～中央区精神障がい者相談支援センター／福岡市立心身障がい福祉センター
- ⑥発達障がい者支援～発達障がい者支援センター
- ⑦相談窓口～南区健康課／精神保健福祉センター／福岡市社会福祉協議会／福岡市生活自立支援センター
- ⑧県内ひきこもりセンター～福岡市ひきこもり地域支援センターワンド／福岡県ひきこもり地域支援センター

エ その他の事業

(7) ひきこもり成年サポートグループ(ステュディオス)～平成22年11月から開始

日程：毎週火・木・第2水曜日 概ね13:00～17:00

場所：あいれふ8階和室、調理室 定員：10名程

内容：所外活動や食事会等の行事、ファシリテーターによるトーク

a 実施回数・参加人数

b 年代別

		火・木・水 (レディスデイ)	合計
実施回数			110
実人数	男性	45	59
	女性	14	
延人数	男性	435	619
	女性	184	

	実数	
	男性	女性
10代	1	1
20代	20	11
30代	18	1
40代	6	1
50代	0	0
小計	45	14
合計	59	

(イ) 視察受け入れなど

平成27年 5月21日(木) オーストラリア放送協会極東アジア支局取材

平成27年 7月10日(金) 厚生労働省視察

平成27年10月21日(水) 宇都宮市議会 厚生常任委員会 行政視察

平成28年 1月14日(木) 厚生労働省アフターサービス推進室聞き取り訪問

6 依存症対策推進事業

今年度より本格的に薬物依存専門相談や当事者・家族を対象とした教室を実施するなど、より専門的な相談支援体制を整えた。また、支援者向け専門研修や関係機関との連携会議の開催、当事者グループへの支援、依存症に関するオリジナルリーフレットの作成・関係機関等への配布などを通して、啓発や連携強化に向けての取り組みを推進した。

(1) 薬物依存問題を抱える家族のための教室 (3の再掲)

【対象】 薬物依存問題を抱える家族 【場所】 あいれふ研修室

【時間】 14時00分～16時00分 【プログラム】 CRAFT

	月 日		内 容・講師	参加数	
	前期	後期		前期	後期
1	5/20	11/18	「薬物依存症とは・交流会」 精神保健福祉センター 精神科医師 精神保健福祉士	2	5
2	6/17	12/16	「依存症者の心理と家族の対応」 雁の巣病院 精神保健福祉士	4	3
3	7/15	1/20	「家族の対応」 精神保健福祉センター 精神保健福祉士	5	4
4	8/19	2/17	「回復のために必要なもの」 雁の巣病院 精神保健福祉士 精神保健福祉センター 精神保健福祉士	6	4
5	9/16	3/16	「薬物依存症からの回復」「ふりかえり」 NPO 法人DARCスタッフメンバー 精神保健福祉センター 精神保健福祉士	5	2
参加人数 合計				22	18

(2) 薬物依存症者回復支援プログラム

【対象】 薬物使用をやめたい（やめ続けたい）本人 【場所】 あいれふ

【時間】 10時00分～11時30分 【プログラム】 SMARPP-16

	月 日	内 容	参加数
1	5月 8日 (金)	(参加者0名の為実施せず)	0
2	5月22日 (金)	「薬物依存症について」	2
3	6月12日 (金)	(参加者0名の為実施せず)	0
4	6月26日 (金)	「思考ストップのテクニック」	4
5	7月10日 (金)	「あなたのまわりにある引き金」	2
6	7月24日 (金)	「あなたのまわりにある引き金」	1
7	8月28日 (金)	「アルコール・薬物のある生活からの回復段階 ー最初の1年間」	1
8	9月11日 (金)	「あなたのまわりにある引き金」	1
9	9月25日 (金)	「あなたのまわりにある引き金」	1
10	10月9日 (金)	「これからの生活のスケジュールを立ててみよう」	2
11	10月23日 (金)	「合法ドラッグとしてのアルコール」 「マリファナはタバコより安全？」	2

12	11月13日(金)	「回復のために一信頼、正直さ、仲間」	1
13	11月27日(金)	「再発を防ぐためには」「再発と正当化」	1
14	12月11日(金)	「性の問題と休日の過ごし方」	1
15	12月25日(金)	「強くなるより賢くなれ」	1
16	1月8日(金)	「あなたの再発・再使用のサイクルは？」	1
17	1月22日(金)	「自分をケアする方法」	1
18	2月12日(金)	「コミュニケーションパターンを知ろう」	1
19	2月26日(金)	「もう一つの自分、再発見!？」	2
20	3月11日(金)	「自分の考え方のクセを知ろう」	3
21	3月25日(金)	「私の好きなところ」	3
参加人数 合計			31

※講師はいずれも精神保健福祉センター 精神保健福祉士

(3) アルコール家族教室

【対象】 アルコール依存問題を抱える家族

【場所】 あいれふ研修室

【時間】 14時00分～16時00分

月 日	内 容	参加数
6月3日(水)	アルコール依存症とは	6
7月1日(水)	アルコール依存症者の心理	6
8月5日(水)	家族の心理	5
9月2日(水)	アルコール依存症からの回復	4
10月6日(火)	酒なしの生活術	4
11月4日(水)	共依存とは	4
12月2日(水)	アダルトチルドレンとは(その1)	6
平成28年 1月6日(水)	アダルトチルドレンとは(その2)	6
2月3日(水)	まとめ	6
参加人数合計		47

※講師はいずれも雁ノ巣病院 精神保健福祉士

(4) 依存症市民講演会

【対象】 市民、関係者

【場所】 あいれふ講堂

日時	内 容	参加数
平成27年 9月2日(水) 14:00～16:00	「ギャンブル依存症とは ～人はなぜギャンブルをやめられないのか?～」 倉光病院 副院長 上村 敬一氏 「回復施設からのメッセージ」 ジャパンマック福岡 施設長 岡田 昌之氏	108

(5) 福岡市依存症支援者連携会議

日 時	内 容	参 加
8月26日(水)	第1回福岡市依存症支援者連携会議	12団体 25名
3月23日(水)	第2回福岡市依存症支援者連携会議	12団体 26名

(6) その他関係機関との会議など

月 日	内 容	場 所
5月28日(木)	九州医療センター職員に対する 精神保健福祉センターにおけるアディクシ ョン関連事業説明	九州医療センター
6月 2日(火)	地域医療課医薬務係との 平成27年度福岡市薬物乱用防止対策推進 協議会打ち合わせ	精神保健福祉センター ミーティングルーム
6月11日(木)	福岡県精神保健福祉センター職員に対する 薬物依存症回復プログラムについての説明	精神保健福祉センター ミーティングルーム
6月11日(木)	保健福祉局保護課職員に対する福岡市依存 症支援者連携会議についての説明	保健福祉局保護課
8月 7日(金)	九州厚生局麻薬取締部との薬物依存症対策 に関する情報交換	精神保健福祉センター ミーティングルーム
8月18日(火)	福岡市薬物乱用防止対策推進協議会 (主催：地域医療課医薬務係)	市役所会議室
9月16日(水)	九州沖縄地区薬物中毒対策連携会議 (主催：九州厚生局)	サンヒルズホテル
12月15日(火)	保護観察所長との打ち合わせ (刑の一部執行猶予制度導入に伴う地域支 援体制整備の推進について)	市役所会議室
12月24日(木)	福岡市薬剤師会との打ち合わせ ・福岡市依存症支援者連携会議 への参加について ・依存症対策事業の広報について ・処方薬依存症対策への取組みについて	福岡市薬剤師会
12月28日(月)	保健福祉局保護課との打ち合わせ (重複処方適正化の取組みについて)	保健福祉局保護課
3月16日(水)	薬物依存症者に関する地域支援連絡協議会	福岡保護観察所

7 自殺対策事業

福岡市における自殺対策は、平成 18 年に発足した「福岡市自殺対策協議会」を構成する関係機関・団体等と連携し、平成 25 年 4 月に精神保健福祉センター内に設置した「自殺予防情報センター」を中心に取り組みを推進している。同年 5 月には平成 28 年度までの取り組み計画を示した、新「福岡市自殺対策総合計画」を策定しており、重点的に推進する 3 つの施策として I 地域の実情に応じたゲートキーパー養成研修の開催と支援、II 自殺未遂者および自死遺族支援の強化、III 若年層、児童・生徒への自殺予防に資する教育の推進を掲げている。

(1) 相談支援事業

① 自殺予防相談

専用電話回線により、自殺を考えるほど悩んでいる本人やその支援者等からの相談に対応している。

受付時間：平日 10:00～16:00（祝日・年末年始を除く）

ア 電話相談

	件数
延数	1 1 0 9
(再掲) 自死遺族	6 7

相談件数は昨年度より大幅に増加している。

相談者は約 8 割が当事者本人である。親族からの相談は少ないながらも増えている。

当事者の年代別では 40 歳代がもっとも多い。当事者が 20 歳代以下、60 歳代以上の場合の相談は大変少なく、また 20 歳代以下、及び 70 歳代以上は本人以外からの相談が多い。

相談内容では健康問題が最も多く、経済・生活問題、家庭問題と続く。

イ 面接相談

電話相談等の結果、必要と判断した場合は面接での相談を行っている。

	件数
延数	3 5
(再掲) 自死遺族	1

② こころと法律の相談会（対面・電話相談）

弁護士、司法書士といった法律家と精神保健福祉士、臨床心理士、社会福祉士等の心や生活支援の専門職とが同席し、相談に対応している。

日 時	方法	会 場	件数
9 月 6 日（日） 10:00～16:00	対面	あいれふ 7 階 第 2・3 研修室	8
	電話	あいれふ 3 階 精神保健福祉センター電話相談室	3
2 月 2 8 日（日） 10:00～16:00	対面	あいれふ 7 階 第 2・3 研修室	2
	電話	あいれふ 3 階 精神保健福祉センター電話相談室	3

③ その他

全国一斉こころの健康相談統一ダイヤル参加（9 月，3 月）

(2) 人材養成事業

対象の特性に応じて、ゲートキーパー養成研修を実施した。

① 一般市民対象ゲートキーパー養成研修

日 時	対 象	参加数
5月28日(木) 13:35~14:35	小笹校区住民	19
6月30日(火) 13:30~15:30	民生委員・児童委員	37
8月27日(木) 13:30~15:30	東区民生委員・児童委員	156
9月10日(木) 15:45~16:45	一般市民(東区開催)	12
10月5日(月) 10:00~11:00	福岡県理容生活衛生同業組合早良支部	34
10月13日(火) 13:30~15:30	一般市民(早良区開催)	27
11月2日(月) 14:10~15:00	福岡県理容生活衛生同業組合中央支部	20
1月29日(金) 13:30~15:00	一般市民(南区開催)	27
計	8回	332

② 専門職対象ゲートキーパー養成研修

日 時	対 象	参加数
8月5日(水) 14:00~15:30	東区保護課ケースワーカー等	13
9月15日(火) 15:00~17:15	全市保護課新任ケースワーカー	26
11月12日(木) 13:30~15:30	地域包括支援センター職員	14
計	3回	53

③ 地域住民への普及に向けた人材養成研修

主に校区担当保健師を対象に2回コースで研修を開催している。

日 時	対 象	参加数
12月11日(金) 14:00~17:00	保健師	18
1月22日(金) 14:00~17:00	保健師	6
計	2回	24

④ かかりつけ医うつ病対応力向上研修（福岡市医師会委託事業）

うつ病の早期発見，早期治療による一層の自殺対策の推進を図ることを目的として，内科医等のかかりつけ医師に対し，うつ病等精神疾患に関する研修を実施している。

【場所】 ソフトリサーチパーク

日時	内容	参加数
1月23日(土) 13:30～18:00	1 診断・治療編 「職場復帰に向けたうつ病治療 ～リワークプログラムを中心に～」 久留米大学医学部神経精神医学講座 講師 内野 俊郎氏 2 基礎知識編 「うつ病治療における睡眠薬の適正使用」 久留米大学医学部神経精神医学講座 教授 内村 直尚氏 3 連携・実践編 ○事例報告 「ストレスチェック制度を活用した職場のメンタルケア」 久留米大学医学部神経精神医学講座 講師 大江美佐里氏 「自死問題支援者法律相談制度の現状と課題」 福岡県弁護士会自死問題対策委員会 弁護士 大石 昌彦氏 ○シンポジウム 【コメンテーター】 久留米大学医学部神経精神医学講座 教授 内村 直尚氏 久留米大学医学部神経精神医学講座 講師 大江美佐里氏 福岡県弁護士会自死問題対策委員会 弁護士 大石 昌彦氏 【座長】 福岡市医師会常任理事 今任 信彦氏	34

(3) 普及啓発事業

① うつ病市民啓発講演会（3の再掲）

【対象】 市民

【場所】 あいれふ 10 階講堂

日時	内容	参加数
7月9日(木) 13:30～15:30	講演 「眠りで気づくこころのサイン ～心地よい目覚めは眠りから～」 久留米大学医学部精神神経科 教授 内村 直尚氏	130

② うつ病家族教室（3の再掲）

うつ病患者を抱える家族が，うつ病やその対応について理解すること，また家族同士の交流を図ることを目的に開催している。

【対象】 うつ病患者を抱える家族 【場所】 あいれふ第2研修室

【時間】 13時30分～15時30分

	日程	内容	講師	参加数
1	10/15 (木)	「うつ病について」 交流会	九州大学病院 精神科医 三浦 智史氏	23
2	10/28 (水)	「家族の対応方法とストレス対処法」交流会	九州大学病院 臨床心理士 堀井 麻千子氏	12
計				35

③ メンタルヘルス対策セミナー

福岡労働局・福岡産業保健総合支援センター・福岡県労働基準協会連合会・全国健康保険協会福岡支部・福岡県・北九州市が協力し実施している。

【対象】福岡地区事業場の健康管理担当者等 【場所】福岡市民会館

日 時	内 容	参加数
7月15日(水) 13:30～16:00	講演 「ストレスチェック制度について」 九州大学基幹教育院 准教授 入江 正洋氏 「問題飲酒行動、酒と自殺、アルコール健康障害について ～上手なお酒とのつきあい方について」 医療法人優なぎ会 雁の巣病院 院長 熊谷 雅之氏 「あなたの職場は大丈夫?!～従業員が元気に働ける職場づくりのポイント～」 全国健康保険協会 福岡支部 保健師 上村 景子氏	802

④自殺予防キャンペーン（9～10月）

ア 市民参加型ほっとけないさん街頭キャンペーン

9月9日(水) 11:00～12:00 天神地区で啓発資材 500 部を配布。(悪天候により時間短縮)

イ スポットCM (15秒) 放映

ソラリアビジョン、福岡チャンネル、ホームページ等で放映

ウ 市健康づくり月間関連事業

7区健康フェアでの自殺予防コーナーの設置

エ こころと法律の相談会

オ 働く若者のための認知行動療法講演会開催 (3の再掲)

【対象】30歳代までの若者、その他関係者

【場所】あいろふホール(福岡市中央区舞鶴2丁目)

日 時	内 容	参加数
10月20日(火) 14:00～16:30	講演 「コミュニケーション・スキルアップとじぶんメンテナンス」 洗足ストレスコーピング・サポートオフィス 所長 伊藤 絵美氏	182

⑤ 自殺予防キャンペーン (3月)

ア スポットCM (15秒) 放映

ソラリアビジョン、福岡チャンネル、ホームページ等で放映

イ 高校・大学生への自殺予防カード配布

健康診断時や新入生説明会等を活用したカードの配布 (24,710部)

就活イベント(マイナビ、県主催合同説明会等)でのカード配布

ウ こころと法律の相談会 (7(1)の再掲)

エ 身近な自殺問題 ～福岡市フォーラム2016～開催（3の再掲）

【対象】中高生～30歳代までの若者，その他関係者

【場所】レソラホール（福岡市中央区天神2丁目）

日 時	内 容	参加数
3月 5日(土) 13:30～16:30	第1部 講演 「若者に伝えたい『分人主義』 ～社会を生き抜くために～」 講師 小説家 平野啓一郎氏 第2部 パネルディスカッション 「社会を生き抜くために ～追い込まれない生き方を考える～」 座長 福岡大学人文学部教授 林幹男氏 パネリスト 平野啓一郎氏 九州大学，九州産業大学，福岡大学大 学院学生	175

⑥ 出前講座（広聴課所管）

「自殺対策について」のテーマで，主に自殺の現状や市の取り組みについて説明している。

日 時	対 象	参加数
11月18日(水) 19:00～20:00	市民勉強会（博多区）	14
2月24日(水) 14:30～15:30	中学校保健委員会（南区）	20
計	2回	34

(4) 自殺未遂者支援事業

① 救急隊とのネットワーク事業

福岡市消防局との連携により，自傷を繰り返すケースや治療に繋がり難い自殺未遂者を適切な医療や相談窓口につなぐことを目的に，救急隊とのネットワーク事業を開始した。

継続連携案件 1件

相談先情報カード渡し件数 50件（8月から計上）

日 時	内 容	参加数
7月30日(木) 10:15～11:00	連携会議	4
3月24日(水) 13:15～14:00	連携会議	4
計	2回	8

② 救急病院との連携事業

救急病院との連携による自殺未遂者支援の方策を探るため、救急病院の現状把握を行うとともに自殺予防情報センター事業の広報を行い、自殺予防相談等の活用の促進を図る目的で病院訪問を実施した。

【期間】平成27年4月22日～平成27年8月27日

【対象】福岡市救急病院協会加盟病院（39か所）

【方法】地域連携室、医療相談室ソーシャルワーカー等に対し電話による連絡調整の後、33医療機関に対し訪問を実施。

【結果】地域連携室等における自殺未遂者支援の現状や精神科医療や関係機関等社会資源情報の不足、自殺予防情報センターの認知度について確認することができた。今後、①地域連携室等への定期的な情報発信②未遂者に直接に関わっている救急科医師や看護師等への情報提供および研修実施③連携モデルとなる救急病院を1か所選定し、未遂者支援事業を実施するとともに連携救急病院の拡大を図る。

③ 未遂者支援研修

【対象】救急病院職員

【場所】ちどりビル2階大会議室（福岡市博多区千代5丁目）

日時	内容	参加数
3月15日(火) 17:30～19:30	講演 「自殺未遂者への理解と多職種連携による支援」 福岡大学医学部精神医学教室 助教 原田 康平氏 福岡大学医学部精神医学教室 助手 吉村 裕太氏	33

(5) 自死遺族支援事業

① 自死遺族法律相談（福岡県弁護士会委託事業）

毎月1回（第1水曜日13時～17時）、弁護士と臨床心理士等が同席し、自死遺族が抱える法律や心の問題に対応している。

実施期間	件数	
平成27年4月～平成28年3月 (延べ日数12日)	対面	9
	電話	5
	14	

② リメンバー福岡 自死遺族の集い

リメンバー福岡自死遺族の集いにおける会場の確保・広報・連絡調整・集い当日の運営サポート等や自死遺族からの要望に応じてメッセージ集の送付を行っている。

【スタッフ】臨床心理士、精神保健福祉士、保健師等

【メッセージ集の送付状況】10件

【日程】奇数月の第4日曜日 13:00～16:30

【場所】あいれふ 視聴覚室等

【参加者状況】

() 新規

開催日	5/24	7/26	9/27	11/22	1/24	3/27	計6回
参加者数	20(7)	25(9)	23(7)	18(7)	8(5)	30(9)	124(44)

(6) 若年層，児童・生徒の自殺予防に資する教育の推進

① 教職員等対象ゲートキーパー養成研修

日 時	対 象	参加数
4月21日(火) 17:00～18:30	学校指導課	15
6月14日(日) 9:00～11:00	スクールカウンセラー福岡市部会	44
8月6日(木) 9:25～10:05	中学校教職員	28
8月20日(木) 15:15～16:20	小学校教職員	17
9月17日(木) 14:30～16:30	小学校養護教諭	152
9月29日(火) 14:00～15:00	中学校教職員	31
11月6日(金) 15:30～16:45	福岡市スクールカウンセラー，スク ールカウンセラー担当教諭	113
2月23日(火) 15:30～16:50	小学校教職員	29
3月17日(木) 15:10～16:10	中学校教職員	24
計	9回	453

② 教育現場における自殺予防講演会

【対象】市内小中学校教職員，スクールカウンセラー等の支援者

【場所】あいれふ講堂

日 時	内 容	参加数
8月28日(金) 13:30～15:40	講演 「児童・生徒の自殺予防 ～効果的な援助関係の成立を目指して～」 講師 新潟県立大学人間生活学部 講師 勝又陽太郎氏	28

③ 学校現場における自殺予防検討会

児童・生徒の生涯にわたるメンタルヘルス教育や自殺予防の取り組みについて検討し、その普及のための体制を構築するため、福岡市スクールカウンセラーおよび教育委員会と連携し、平成26～27年度の2か年計画で開催した。教職員対象の「学校における自殺予防」研修の実施校拡充を図るため、市立小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に研修テキストおよびDVDを配布するとともにスクールカウンセラー対象の研修会を開催した。

日 時	内 容	参 加 数
5月25日(月) 10:00～12:00	平成27年度検討会スケジュール 教育媒体を活用した自殺予防研修実施報告 意見交換	6
9月28日(月) 10:00～11:40	教育媒体を活用した自殺予防研修実施報告 自殺予防学会研究発表報告 意見交換	6
12月14日(月) 16:00～17:40	教育媒体を活用した自殺予防研修実施報告 Q-Uアンケートを活用した研修媒体検討 意見交換	6
1月25日(月) 15:00～17:00	教育媒体を活用した自殺予防研修実施報告 Q-Uアンケートを活用した研修媒体検討 意見交換	7
2月16日(火) 15:00～17:00	Q-Uアンケートを活用した研修媒体検討 意見交換	7
計 5回		32

④ 広報活動

日 時	内 容	参加数
2月18日(木) 11:25～11:30	校長・園長連絡会 「学校における自殺予防」研修媒体の活用について	240

(7) 関係機関との連携

① 福岡市自殺対策協議会

日 時	内 容	委員参加数
5月14日(木) 10:00～11:30	「福岡市自殺対策総合計画」の進捗状況について 意見交換	19

【委員構成】合計23名

医療関係者 8名、学識関係者 4名、労働関係者 3名、
地域関係者 1名、警察 1名、民間 2名、行政関係者 4名

② 「いのちをまもる相談チーム」自殺未遂者支援検討会

日 時	内 容	参加数
7月 3日 (金) 15:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の活動計画と自殺予防情報センターとの連携について ・平成 26 年度活動計画について ・「こころと法律の相談会」事業打ち合わせ 	1 2
12月 17日 (木) 15:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺未遂者支援事業検討 ・「こころと法律の相談会」事業打ち合わせ 	1 1
計	2 回	2 3

③ 福岡県・北九州市との連絡会議

日 時	内 容	参加数
7月 21日 (火) 16:00～17:30	活動計画や実施状況に関する情報交換	1 5
計	1 回	1 5

8 相談事業

平成27年度より、従来行ってきた精神保健全般についての[こころの健康相談]から、[専門相談]へと移行した。「アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症」、「ひきこもり」、「発達障がい」、「性同一性障がい」の専門電話相談および、「アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症」、「ひきこもり」の専門医師による面接相談を行っている。従来の相談についても必要に応じ行っている。

(1) 専門医師による面接相談（要予約）

「アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症」 相談日時 第1・3火曜日 第2・4木曜日 午後
「ひきこもり」 相談日時 月1回の金曜日 午前

(2) 専門電話相談

「アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症」 「ひきこもり」 火・木曜日 午前10時～午後1時
「発達障がい」 「性同一性障がい」 第1・3水曜日 午前10時～午後1時
電話番号 737-8829

	計	専門相談									その他
		小計	依存症					ひきこもり	発達障がい	性同一性障がい	
			アルコール	薬物	ギャンブル	その他	計				
面接	211	171	41	34	12	0	87	69	15	0	40
電話	1,330	574	134	70	83	21	308	155	101	10	756
計	1,541	745	175	104	95	21	395	224	116	10	796

※面接相談の件数には当センター職員による相談も含まれます。

相談者の状況（1件の相談に関し、全ての相談者を含む）

【本人との続柄】

	計	本人	配偶者	親	子ども	きょうだい	その他の親族	知人	その他
面接	266	77	27	122	7	11	4	2	16
電話	1,339	529	79	339	46	34	50	35	227
計	1,605	606	106	461	53	45	54	37	243

【性別・年齢別】

	計	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	不明
男	567	0	32	101	71	83	77	33	170
女	1,026	0	47	121	155	166	113	71	353
不明	12	0	0	0	0	0	0	0	12
計	1,605	0	79	222	226	249	190	104	535

【相談時間】

(分)

	計	～14	15～29	30～59	60～
電話 件数	1,330	1,006	228	84	12

9 組織育成

家族会、患者会などの組織の育成に努めるとともに、その組織の活動に協力するなど各種組織の活動を支援している。

(1) リメンバー福岡 自死遺族の集い(7の再掲)

リメンバー福岡自死遺族の集いにおける会場の確保・広報・連絡調整・集い当日の運営サポート等や自死遺族からの要望に応じてメッセージ集の送付を行っている。

【スタッフ】 臨床心理士，精神保健福祉士，保健師等

【メッセージ集の送付状況】 15 件

【日程】 奇数月の第4日曜日 13:00～16:30

【場所】 あいれふ 研修室等

【参加者状況】 () 新規

開催日	5/24	7/26	9/27	11/22	1/24	3/27	計6回
参加者数	20(7)	25(9)	23(7)	18(7)	8(5)	30(9)	124(44)

(2) 当事者団体等への支援

① アディクション関連団体

名称	日時	内容
ジャパンマック福岡	4月10日(金)	運営委員会
	9月11日(金)	運営委員会
九州DARC	10月3日(土)	20周年記念フォーラム
ジャパンマック福岡開設2周年記念セミナー	11月29日(日)	講演「福岡市精神保健福祉センターの取り組みについて」
福岡県断酒連合会	8月23日(日)	第25回酒をやめたい人の集い

② 家族会・当事者会

名称	日時	内容
福岡「楠の会」総会	4月29日(水)	講演「ひきこもり・精神障がい者が利用できる支援制度と社会資源について」
あすなる懇親会	7月18日(土)	顧問・来賓・会員紹介
第8回全国精神保健福祉家族大会(みんなねっと福岡大会)	9月28日(月) ～9月29日(火)	基調講演、活動報告、記念講演、分科会
精神保健福祉ふくおか家族会かの要望に関する説明会	平成28年 1月13日(水)	要望についての説明会
あすなる意見交換会	1月29日(金)	意見交換会
精神障がい者家族会連合会 *福岡市・糸島市・宗像市の家族会	1月31日(日)	講演会
NPO 法人ノーチラス会	3月20日(日)	ふくおか支部発足会

③ その他

名称	出席回数	内容
第8回全国精神保健福祉 家族大会（みんなねっと 福岡大会）実行委員会	2回	当日運営、役割分担について
ピアサポート講座 実行委員会	7回	ピアサポート講座の日程、内容、講師 PR方法などについての話し合い

10 関係機関との会議

会議名	主催・事務局	出席回数
福岡市職員衛生管理審査会	総務企画局コンプライアンス推進課	11回
福岡市職員メンタルヘルス対策推進協議会	総務企画局コンプライアンス推進課	1回
民生委員・児童委員推薦会	保健福祉局高齢社会政策課	3回
保健福祉総合計画障がい者分野関係課長会議	保健福祉局障がい者在宅支援課	1回
発達障がい児・者支援体制検討関係課長会議	保健福祉局障がい者在宅支援課	5回
保健福祉総合計画障がい者分野WG会議	保健福祉局障がい者在宅支援課	3回
マイナンバー局内説明課長会議	保健福祉局介護福祉課	2回
マイナンバーシステム刷新課長会議	保健福祉局介護福祉課	1回
福岡県精神保健福祉協会評議員会	福岡県精神保健福祉協会	1回
保健福祉審議会障がい者保健福祉専門分科会	保健福祉局障がい者在宅支援課	4回
保健福祉審議会健康医療分野部会	保健福祉局地域医療課	2回
保健福祉局審議会合同分科会	保健福祉局障がい者在宅支援課	1回
保健福祉審議会	保健福祉局制作推進課	1回
保健福祉審議会健康づくり専門分科会	保健福祉局健康推進課	1回
こども子育て審議会総会	こども未来局	1回
精神保健福祉ふくおか家族連絡会要望説明会	保健福祉局障がい者在宅支援課	1回
福岡県精神保健福祉協議会幹事会及び会誌編集委員会	福岡県精神保健福祉協議会	1回
福岡県精神保健福祉協会常任理事会幹事会	福岡県精神保健福祉協議会	1回
精神保健福祉協議会との意見交換会	保健福祉局障がい者在宅支援課	1回
全国自殺対策主管課長等会議	内閣府	1回
福岡県自殺対策推進協議会	福岡県心の健康づくり推進室	1回
保健福祉総合計画原案市民説明会	障がい者在宅支援課	3回
医療観察法判定事例研究会	九州厚生局	1回
医療観察法地域連絡協議会	保護観察所	1回
犯罪被害者支援連絡協議会	市民局	1回
福岡司法精神医学懇話会研修会	福岡司法精神医学懇話会	2回
福岡発達障がい者支援協議会	こども未来局こども発達支援課	1回
福岡県精神保健審議会	福岡県	1回
市民病院機構職員衛生管理審査会	市立病院機構	2回
精神科救急システム福岡ブロック会議	福岡県	1回
全国センター長会常任理事会	全国センター長会	2回
全国センター長会総会・会議・研究協議会	全国センター長会	3回
九州ブロック精神保健福祉センター長会	九州ブロックセンター長会	1回
第1回精神科医会総会	福岡市医師会精神科医会	1回
アディクション関連問題研修会の連絡会議	福岡県精神保健福祉センター	1回

性同一性障がいに関する庁内関係課連絡会議	市民局人権推進課	1回
地域活動支援センター I 型センター長会議	地域活動支援センター I 型	6回
障がい者施策に関する意見交換会	保健福祉局障がい者在宅支援課	2回
障がい者等地域生活支援協議会	保健福祉局障がい者在宅支援課	2回
福岡市学校精神保健協議会	福岡市学校精神保健協議会	5回
いじめ防止対策推進委員会	教育委員会	3回
思春期相談関連懇話会	こども総合相談センター こども相談課	2回
福岡県性犯罪者処遇研究会	福岡保護観察所	1回
相談窓口担当課連絡会議	市長室広報課	1回
摂食障害対策推進協議会	九州大学病院	1回
不登校よりそいネット連絡協議会	不登校よりそいネット実行委員会	1回
福岡コージネット支援連絡会	福岡市心身障がい福祉センター	2回

11 精神医療審査結果

(1) 精神医療審査会

精神障害者の人権に配慮しつつ、その適正な医療及び保護を確保するため中立公正な審査を行う専門的かつ独立的な機関

〈構成〉 精神障害者の医療に関する学識経験者2～名、精神障害者の保健又は福祉に関する学識経験者1～名、法律に関する学識経験者1～名で合議体を構成。平成13年より3合議体

〈検査内容〉 ①書類審査：医療保護入院届、措置入院者及び医療保護入院者の定期病状報告書
②入院者からの退院請求及び処遇改善請求

〈開催日〉 月3回 第1・2・4木曜日

(2) 審査件数

開催回数	退院請求	処遇改善請求	医療保護入院届	定期病状報告書	
				医療保護入院者	措置入院者
30	29	2	1,833	889	44

(3) 退院・処遇改善審査結果

退 院 請 求 書	請求件数		45	
	結 果	審査	現在の入院形態での入院が適当	28
			他の入院形態への移行が適当	1
		入院継続は適当でない	0	
		請求が取り下げられたもの	7	
		既に退院したもの	3	
		審査を継続したもの	6	
処 遇 改 善 請 求	請求件数		4	
	結 果	審査	現在の処遇は適当	2
			現在の処遇は適当でない	0
		請求が取り下げられたもの	1	
		既に退院したもの	0	
		審査を継続したもの	1	

※審査書類件数2,766件
(医療保護入院届と定期病状報告書)

※退院・処遇改善請求件数45件
(うち4件は、退院・処遇改善同時請求)

※現地意見聴取件数29件
(うち2件は、退院・処遇改善同時請求)

(4) 定期報告等審査結果

医 療 保 護 入 院 届	審査件数		1,833
	審 査 結 果	現在の入院形態での入院が適当	1,818
		他の入院形態への移行が適当	0
		入院継続は適当でない	0
		次年度へ審査を継続したもの	15
医 療 保 護 入 院 者 の 定 期 病 状 報 告 書	審査件数		889
	審 査 結 果	現在の入院形態での入院が適当	882
		他の入院形態への移行が適当	0
		入院継続は適当でない	0
		次年度へ審査を継続したもの	7
措 置 入 院 者 の 定 期 病 状 報 告 書	審査件数		44
	審 査 結 果	現在の入院形態での入院が適当	42
		他の入院形態への移行が適当	0
		入院継続は適当でない	0
		次年度へ審査を継続したもの	2
審査件数合計			2,766

12 自立支援医療公費負担及び精神障害者保健福祉手帳の判定

(1) 認定審査委員会

開催日：月2回 第2・4水曜日

(2) 自立支援医療公費負担

H28.3月末現在

	計	東区	博多区	中央区	南区	城南区	早良区	西区
承認	22,620	4,660	3,575	2,342	4,049	1,903	3,215	2,876
不承認	3	2						1
保留	44	15	8	3	6	1	7	4
計	22,667	4,677	3,583	2,345	4,055	1,904	3,222	2,881
所持者数	21,758	4,477	3,430	2,220	3,891	1,915	3,057	2,768

(3) 精神障害者保健福祉手帳

H28.3月末現在

	計	東区	博多区	中央区	南区	城南区	早良区	西区	
承認	1	311	63	35	24	92	31	34	32
	2	2,195	427	389	255	373	207	307	237
	3	2,068	409	376	206	364	175	247	291
	計	4,574	899	800	485	829	413	588	560
不承認	33	10	4	3	5	3	2	6	
保留	108	31	11	7	23	9	9	18	
計	4,715	940	815	495	857	425	599	584	
所持者数	1	904	171	120	68	231	78	124	112
	2	7,075	1,494	1,092	674	1,232	632	1,089	862
	3	4,249	852	725	438	738	392	529	575
	計	12,228	2,517	1,937	1,180	2,201	1,102	1,742	1,549

※ 承認・不承認・保留件数については、平成27年4月1日～平成28年3月31日までの累計。
所持者数は、平成28年3月末。

13. 調査研究事業

第51回全国精神保健福祉センター研究協議会
平成27年11月3日、4日 長崎市

福岡市精神保健福祉センターにおける依存症支援への取り組みと課題

福岡市精神保健福祉センター
○丸林一成 安部大和 日高ともみ
宮之脇朗美 川上寛 河野亨

【はじめに】

福岡市精神保健福祉センター（以下、「当センター」という）では、開設当初より、「こころの健康相談」の中での相談という形で依存症への対応を行っていたが、市内2か所のアルコール依存症の専門治療医療機関を除き、依存症に対応できる相談機関や医療機関がほとんどなく、DARC等の自助グループに過剰な負担がかかっており、十分な対応ができていないと言いき難い状況であった。

平成27年度より、当センターの相談事業を「こころの健康相談」から「専門相談」（アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症、ひきこもり、発達障がい、性同一性障がい）へ移行すると共に、アルコール家族教室・薬物家族教室・薬物依存症者回復支援プログラムも開始した。

今回、アルコール家族教室・薬物家族教室・薬物依存症者回復支援プログラムの開催に向けての取り組みと課題について報告する。

【平成26年度までの依存症支援の状況】

1 福岡市在住の依存症者の入通院者数

平成25年度に実施した「福岡市精神障がい者実態調査」において、福岡市圏の医療機関の精神科に入院又は通院しており、福岡市内に住所を有する患者数を疾患別に調査（平成25年6月時点）したところ、ICD-10におけるF1（精神作用物質使用による精神および行動の障害）を主病名とする患者は1,008人であり、全疾患の2.8%（入院：5.9%、通院：2.5%）であった。

2 当センターにおける相談件数

「こころの健康相談」における依存症への対応について、平成23年度からの相談件数を右表に示している。

薬物関連の相談について、平成25年度と平成26年度を比較すると、約2.5倍の増加となっている。

こころの健康相談（電話・面接）

（電話件数 / 面接件数）

		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
依存症	アルコール	26 / 6	23 / 10	43 / 12	42 / 15
	薬物	7 / 5	11 / 6	13 / 7	31 / 18
	ギャンブル	34 / 4	20 / 0	35 / 4	27 / 4
依存症 合計		67 / 15	54 / 16	91 / 23	100 / 37
全相談件数		3,032 / 343	2,942 / 481	3,156 / 442	2,745 / 227
依存症の割合		2.2% / 4.4%	1.8% / 3.3%	2.9% / 5.2%	3.6% / 16.3%

電話相談
相談日 月～金 ※H26年10月～3月末(月・水・金)
時間 午前10時～午後4時

面接相談(予約制)
相談日 月・水・金
時間 午前10時～午後3時30分

3 福岡市（行政機関）における依存症支援

アルコール家族教室を市内7区のうち2区の保健福祉センター（保健所）で、アルコール専門相談（専門医）を市内7区のうち5区の保健福祉センターで実施していた。

4 専門医療機関

福岡市内に、2か所のアルコール依存症の専門治療医療機関があり、そのうち、1か所の医療機関が平成26年5月よりアルコール依存症に加えて薬物依存症の外来・入院治療を本格的に開始した。

5 自助グループ等

AAをはじめとした断酒会や九州DARC・NA・ナラノン・GA・ジャパンマック福岡等が活動している。

6 平成27年度に向けての取り組み

平成26年度より、家族教室や当事者支援に向けた準備として、依存症関連の研修会の受講や既に当事者向けの支援プログラムを実施している保護観察所や医療機関でのプログラム見学を行った。

また、九州DARCやナラノンからも助言や協力をいただき、プレ開催として1月から3月にかけて、薬物家族教室（全3回）とDARCメンバーを対象にした回復支援プログラム（全5回）を実施した。プレ開催は、実際のニーズの把握やプログラムの実践を経験でき、平成27年度の教室運営を計画するうえで効果的であった。

関係機関との連携構築を目的に、福岡市依存症支援者連携会議を3月に開催した。

【平成27年度の依存症支援について】

各教室の内容は下記のとおりである。」

教室名	開始	日時	実施期間	定員	備考
アルコール家族教室	H27年6月	第1水曜日 14:00～16:00	全9回(月1回)を年1回	10名程度	
薬物家族教室	H27年5月	第3水曜日 14:00～16:00	1クール全5回(月1回)を年2回	10名程度	CRAFTを基本にした内容
薬物依存症者 回復支援プログラム	H27年5月	第2・4金曜日 午前	月2回(終了期限なし)	10名程度	SMARPP-16を使用

各教室の申し込みには、専門相談を経由し事前面接を行ったうえで参加決定とした。

広報は、『市政だより』（福岡市の広報誌）の掲載や薬物問題関連の関係機関（司法・矯正施設・自助グループ・薬物依存症を診ている医療機関等）、相談支援センターなどへの案内及び当センターホームページに掲載を行っている。

各教室の参加状況は、右表に示している通りである。徐々にではあるが、参加者が増えている。回復支援プログラムでは、6月に登録（事前面接終了）者が5名になるがその後1名が矯正施設へ入所となり、プログラム参加が不可能となったため登録から外れている。

家族教室・回復支援プログラム 参加状況

参加者数（登録者数）

教室名	5月		6月		7月	
アルコール家族教室	-		6 (7)		6 (8)	
薬物家族教室	2 (4)		4 (5)		5 (6)	
回復支援プログラム	0 (1)	2 (3)	0 (4)	4 (5)	2 (4)	1 (5)

また、平成26年度より、当センターの医師が更生保護施設での薬物回復プログラムの講師として従事しており、その際に教室担当者も同行し教室についての案内を行ったところ、当センターの教室参加に繋がっている。

福岡市依存症支援者連携会議の開催（年2回）や市民講演会を開催し、依存症への理解を深めている。

【今後の課題】

事業の周知や参加者の開拓及びスタッフのマンパワーの確保等と課題は山積しているが、中でも講師のローテーション化やスタッフのスキルアップ、プログラム内容の一定水準の担保及び参加者の理解度を促進するために、各教室等で使用しているテキストのワークブック作成を検討している。

矯正施設等においては、期間満了にて支援が終了となった後、支援機関との関わりが途絶えてしまい再使用のリスクが高まる。依存症者やその家族には継続的な支援が必要であり、精神保健福祉センターにそれを担うことが求められているが、認知が不十分であることより、まだまだ相談しづらい状況がある。支援の継続先として当センターへ繋がるためには、依存症者やその家族の抱えている不安や疑念の解消・軽減を図ることが重要であり、適切な機会に当センターの各教室の説明や質疑を顔の見える状況で行うことが有効であると考えられ、事前に教室担当者と顔を合わせる場面が作れることが望ましい。現在も関係機関と依存症支援者連携会議を実施しているが、より一層の関係機関との連携が必要になると考えられる。

福岡市精神保健福祉センターの専門相談の概要と中間報告

福岡市精神保健福祉センター 相談指導係

- 神前洋帆 宇佐美貴士 安部大和
- 丸林一成 川上 寛 河野 亨

1 はじめに

福岡市精神保健福祉センター（以下、「当センター」という）における相談業務は、平成12年11月の開所と同時に「こころの健康相談」として電話及び面接相談を開始した。平成26年度の相談件数は、電話相談が2,745件（延べ）、面接相談が277件（延べ）であり、相談内容については精神保健福祉に関すること以外の相談も多く、多岐に渡っていた。

精神保健福祉センターの業務に関し、精神保健福祉法第六条二項の2において「精神保健及び精神障害者の福祉に関する相談及び、指導のうち複雑又は困難なものを行うこと」とされているが、これまで当センターで実施していた相談業務は、精神保健福祉センターとしての機能・役割が十分に発揮されているとは言い難い状況であった。

そこで、当センターにおける相談業務の機能・役割を高める取り組みの足掛かりとして、平成27年度より相談業務の改変を行った。本報告では、平成27年度より開始した新たな相談業務の取り組みについて中間報告し、課題を考察する。

2 専門相談への改変と概要

(1) 専門相談への改変

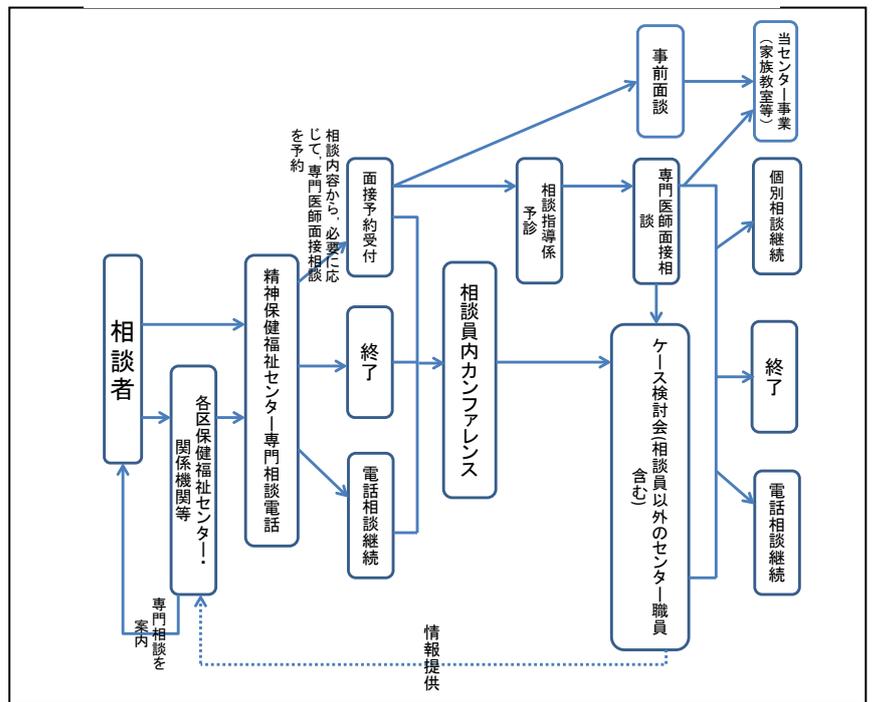
当センターにおいては、これまでの相談支援体制を見直し、他の相談機関等と相談内容の差別化をするとともに、新たな専門支援体制を構築することで、精神保健福祉センターとしての役割を果たそうとしている。そこで、当センターは平成27年度より「依存症」、「ひきこもり」、「発達障がい」、「性同一性障がい」に関する『専門相談』を開始した。当センターにおける『専門相談』の流れを図1に示す。

(2) 専門相談の概要

毎週火曜・木曜日10時～13時

に「アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症」「ひきこもり」に関する相談、第1・第3水曜日10時～13時に「発達障がい」「性同一性障がい」に関する相談を、センター職員（精神科医、臨床心理士、精神保健福祉士）が電話にて実施している。また、「専門医師面接相談」として、市内の専門外来のある病院から医師を派遣してもらい、第1・第3火曜日、第2・第4木曜日午後「アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症」、月1回金曜日午前に「ひきこもり」に関する面接相談を実施している。

図1 福岡市精神保健福祉センターにおける専門相談の流れ



3 相談状況の中間報告

平成27年度から開始した専門相談の相談状況（表1）としては、「依存症」、「ひきこもり」の相談が多い。要因として、専門医師面接相談の申し込みや当センターの家族教室（アルコール・薬物・ひきこもり）や薬物依存症患者回復支援プログラムなどと連携して行っていること、他機関からの紹介が増えつつあることが考えられる。

専門医師面接相談は、家族のみの来所が13件と多く、本人と家族両方の来所は8件、本人のみの来所は3件のみであった。「依存症」、「ひきこもり」は、本人が受診につながらない場合や、家族のみが心配を抱えている場合が多く、当センターの専門相談が医療につながる前段階の役割として機能していると考えられる。

また、専門医師面接相談における「ひきこもり」の相談の内訳として、社会的ひきこもりが4件、病的ひきこもりが3件、その他が2件であり、病的ひきこもりと判断されたケースは、発達障害、うつ病、統合失調症が疑われた。

表1 平成27年度4月～6月の専門相談件数 (単位：件)

	計	依存症			ひきこもり	発達障害	性同一性障害	その他
		アルコール	薬物	ギャンブル				
面接	24	8	2	5	9	-	-	-
電話	117	33	11	12	43	4	2	12
計	141	41	13	17	52	4	2	12

4 事例紹介

(1) 対象者

40代女性。4人姉妹の長女。同居家族は、夫、長女、長男。B型肝炎、甲状腺機能低下症などの診断を受けているが、医療保険未加入のため治療に至らず。3年前に次男を事故で亡くしており、それ以来アルコールを飲む回数が増えてきた。

(2) 当センターでの相談

① 専門相談電話

対象者の妹から相談が入る。対象者の様子を聞き取り、アルコール依存症が疑われた。専門医師面接を案内すると、対象者への対応や医療機関について知りたいと希望したため予約を入れた。

② 専門医師面接相談

- (第1回) 妹、父、継母の3名が来所。いずれも、対象者とは同居しておらず、詳細が不明。アルコール依存症の家族歴が判明。精神科受診は対象者の抵抗がある様子がうかがえたため、専門医師は対象者が当センターに相談することを提案し、家族の対応の方法を伝え終了。後日、「本人も相談したいと言っている」とのことで、専門医師面接の予約が入った。
- (第2回) 対象者、妹、父が来所。対象者は、アルコール問題の自覚があり、問題飲酒の理由として「次男を亡くした辛さを紛らわすため、夫の存在」と話した。専門医師から対象者へアルコール依存症について説明し、専門医療機関の受診及び身体疾患の治療を勧めた。保険加入や無料低額診療などの情報提供をセンター職員から行った。

5 今後の課題

専門相談を行う上で、職員の資質と専門性の向上は緊急の課題である。そのため、専門医師による面接後のカンファレンスや内部での事例検討会を継続して行い、年度ごとに数値目標を定め、職種に応じた適切な研修の受講、学会・協議会等への参加を積極的かつ確実にやっていく必要があると思われる。

また当センターが専門相談に移行したことを、市民に限らず広く周知し、協力し合える機関を新たに増やしていくことも課題の1つであろう。

福岡市精神保健福祉センターにおける
依存症支援への取り組みと課題

○丸林 一成 (P S W) , 安部 大和 (P S W) ,
日高ともみ (P H N) , 宮之脇朗美 (P H N) ,
川上 寛 (他) , 河野 亨 (D R)

福岡県：福岡市精神保健福祉センター

【はじめに】

福岡市精神保健福祉センター（以下、「当センター」という）では、開設当初より、「こころの健康相談」の中での相談という形で、依存症への対応を行っていた。また、市内 2 か所のアルコール依存症の専門治療医療機関を除き、依存症に対応している相談機関や医療機関が少なく、D A R C 等の自助グループに過剰な負担がかかっており、十分な対応ができていない状況であった。

平成 2 5 年度は、この年に改定された福岡市自殺対策総合計画に基づき、自殺対策係が新設され、当センター内に福岡市自殺予防情報センターが設置され、自殺対策の観点からも依存症支援の重要性が認識されるようになってきた。また、平成 2 6 年 5 月から、アルコール依存症の専門治療医療機関である A 病院が、アルコール依存症に加えて薬物依存症の外来・入院治療を本格的に開始した。これらのことが大きな刺激となり、当センターでの薬物依存症支援に向けての取り組みがより推進した。

今年度、当センターは相談事業を「こころの健康相談」から「専門相談」（アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症、ひきこもり、発達障がい、性同一性障がい）へ移行すると共に、依存症家族や当事者の支援のため、アルコール家族教室・薬物家族教室・薬物依存症者回復支援プログラムを開始した。

【平成 2 7 年度 依存症支援】

- ・依存症専門（電話）相談（週 2 日実施）
- ・依存症専門（専門医面接）相談（月 4 日実施）
- ・アルコール家族教室（全 9 回、年 1 クール実施）
- ・薬物家族教室（全 5 回、年 2 クール実施）
- ・薬物依存症者回復支援プログラム（月 2 回実施）
- ・福岡市依存症支援者連携会議（年 2 回実施）
- ・依存症市民講演会 など

【結果・考察】

今回、アルコール家族教室・薬物家族教室・薬物依存症者回復支援プログラムの開催に向けての取り組み、実施内容及び経過、今後の課題について考察し報告する。

Q-U アンケートを活用した学校現場における自殺予防の取り組み

○志岐 景子¹⁾、立石 繁美¹⁾、川上 寛¹⁾、河野 亨¹⁾、武部 愛子²⁾、西村 修²⁾、
山内 ひろみ²⁾、瀧田 文隆³⁾、関 佳恵⁴⁾

- 1) 福岡市精神保健福祉センター 2) スクールカウンセラー福岡市部会
3) 福岡市教育委員会学校指導課 4) 福岡市教育委員会健康教育課

【目的】

福岡市では、児童・生徒への自殺予防に資する教育の推進を重点施策の 1 つとして、小・中学校で教職員等を対象とした自殺予防の研修を行ってきたが、研修を実施する学校数が伸び悩んでいた。そこで、小・中学校における自殺予防の現状を知り、現場に即した研修を行うことを目的に、精神保健福祉センター、教育委員会およびスクールカウンセラー（以下 SC）による検討会を開催し、学校現場における自殺予防の下地を作ることを試みた。本発表では、今回作成した教育媒体の内容と、媒体を活用して行った教職員を対象とした研修の結果、ならびに今後の展開方法について報告する。

【経過と方法】

学校現場の現状の把握と課題の抽出の検討を重ねる中で、全小・中学校で実施している「Q-U アンケート」（以下 Q-U）に着目した。教職員が自殺の危険性を判断する方法として活用できないかと考え協議を進めたところ、SC より「いごちのよいクラスにするためのアンケート」の活用方法について提案があった。

そこで教育媒体では自殺予防の視点に基づいた Q-U の結果の読み取り方を取り入れ、さらに小・中学校での自殺事例の背景として見られる児童・生徒の特性等について明示し、具体的な対応などを示した。その後、教育媒体を使用した研修を実施した。

【結果と考察】

受講後アンケートによると、「Q-U の視点はすぐに現場で活用することができる」、「周囲に働きかける力の弱い児童も支援を必要としているという認識を持つことができた」など概ね好評だった。研修を実施することで、自殺予防の視点を持ちながら児童・生徒に関わってもらう機会につながるのではないかと思われる。

今後も各小・中学校で研修を行い、アンケート結果を基に媒体の修正を行っていくとともに、次年度までに検討会成果物として各校に媒体を配布し、各校で研修を行う体制を整えていく予定である。

Q-U アンケートを活用した学校現場における自殺予防の取り組み その2

- 1) 福岡市精神保健福祉センター 2) 福岡市スクールカウンセラー 3) 福岡市教育委員会
○志岐 景子¹⁾ 立石 繁美¹⁾ 川上 寛¹⁾ 河野 亨¹⁾ 武部 愛子²⁾ 西村 修²⁾
山内 ひろみ²⁾ 山田 圭三³⁾ 関 佳恵³⁾

1. はじめに

日本の自殺者数は、ここ数年3万人を下回り減少傾向にあるが、10～30代の自殺者数は減少の割合が小さく、若年層を対象とした自殺予防の取り組みは喫緊の課題となっている。

本市も全国と同様の傾向にあり、「若年層、児童・生徒への自殺予防に資する教育の推進」を重点施策の1つに掲げ、小・中学校の教職員等を対象とした出前式の自殺予防研修を行ってきたが、研修の実施件数が伸び悩んでいたことから「学校現場における自殺予防検討会」を立ち上げ、自殺予防の下地作りを目指して、学校の実情に即した研修体制の構築を試みた。本発表では、検討会の経過、作成した研修媒体の内容及び媒体を活用して行った研修の結果について報告する。

2. 学校現場における自殺予防検討会

(1) 目的

児童・生徒の生涯を通じてのメンタルヘルス教育や自殺予防の取り組みについて検討し、その普及のための体制を構築する。

(2) 目標

平成26年度：学校現場での取り組み状況を把握し、教育プログラムやその展開方法、啓発媒体等について検討する。

平成27年度：教育プログラムの作成および啓発・広報活動を実施。本格実施に向けて、実施者への研修等を行う。

(3) 構成メンバー

福岡市スクールカウンセラー（福岡県臨床心理士会所属）3名、福岡市教育委員会指導部学校指導課（指導主事）、福岡市教育委員会教育支援部健康教育課（養護教諭）各1名、福岡市精神保健福祉センター（臨床心理士、保健師）2名の計7名。

(4) 期間

平成26年4月～平成28年3月までの2年間、年間4回程度の開催。

(5) 経過

構成メンバー内で学校が抱える問題や教職員の自殺予防に関する意識等について情報交換を行い、現状の把握や課題を抽出した。学校は、子どもたちが多くの時間を過ごす場所であり、学校の中に安心できる居場所があるかどうか、クラスになじむことが出来ているかなどは、孤立感や自己肯定感の減弱に影響を与えると考えられる。教職員は子どもたちと接する時間が長く、子ども達の変化や抱えている問題に気付くなど、児童・生徒の自殺予防においていわばゲートキーパーとしての役割を果たす存在と位置づけることができる。そこで、まずは自殺予防に関する知識や支援が必要な児童・生徒への対応方法について教職員に学んでもらうための研修媒体（パワーポイント）を作成することとした。

研修媒体の活用により、①自殺予防には子ども達の援助希求能力を養い、将来の自殺予防を防ぐというメンタルヘルスの向上の視点と今現在困難な状況にあり、支援を必要とする児童・生徒の未然防止という2つの視点が必要であること、②学校には悩みを抱えていながら周囲に助けを求めることができない児童・生徒も存在することから、自殺の危険性が高かったり困難な状況にある児童・生徒に周囲の大人が気づいて関わりを持ち、支援につなげることの重要性を伝えていくこととした。

3. 研修媒体

(1) Q-U アンケートとは

学校生活における生徒個々の意欲や満足度、学級集団を測定する質問紙で「やる気のあるクラスを作るためのアンケート」と「いごちのよいクラスにするためのアンケート」から構成される。児童・生徒個々の学級生活における満足感と意欲、それに関する児童・生徒の学級における相対的な位置、学級集団の雰囲気や成熟状態について情報を得ることができ、支援が必要な児童・生徒等について把握することが可能とされている。

(2) 研修媒体の内容

今回作成した研修媒体の内容を下記に示す（表1）。導入として、全国及び福岡市の若年者の自殺者数の推移や原因・動機等統計的な知識と自殺対策の取り組みについて触れ、教職員が遭遇しやすい自傷行為への対応、自殺との関連等について提示した。教職員が児童・生徒の自殺の危険性を判断する方法として、検討会の中でスクールカウンセラーより Q-U アンケートの活用について提案があった。そこで研修媒体では、学校における自殺予防の視点として、困難を抱えている可能性がある児童を見つけ出すための Q-U アンケートの読み取り方法や着目すべき質問項目等、学校現場ですぐに取組みが可能な具体的な方法について提示した。さらに事例を設定し、自殺の背景として見られる児童・生徒の特性等について明示し、具体的な対応などを示した。

表1. 研修媒体の内容

1. 自殺の現状～自殺者数、原因・動機等
2. 国、福岡市における取組
3. 学校における自殺予防 ～自傷行為について
4. 学校における自殺予防の視点 ～背景、要因
5. Q-U アンケートを活用した児童・生徒の理解
6. まとめ ～支援について

4. 教育媒体を活用した研修

作成した媒体を使用した研修の受講後に実施したアンケートの結果を下記に示す。

福岡市教育委員会指導主事対象：平成27年4月実施、15名参加

福岡市スクールカウンセラー対象：平成27年6月実施、44名参加 合計59名

表2. 自殺予防の視点からの Q-U の活用の有無(N=44)

	回答	割合
これまでQ-Uアンケートを自殺予防の視点から読み取ったことがありますか	ある	4.5%
	ない	93.2%
	不明	2.3%
合計		100.0%

表3. Q-U の有効性について(N=44)

質問項目	回答	割合
自殺予防の視点からQ-Uアンケートを活用することは、学校での自殺予防の取り組みとして有効だと思いますか。	とてもそう思う	45.5%
	そう思う	47.7%
	あまりそう思わない	6.8%
	全くそう思わない	0.0%
合計		100.0%

ほとんどの受講者はこれまで自殺予防の視点から Q-U アンケートを活用したことはなく（表2）、学校現場での活用について支持が得られた（表3）。自由記述からも新たな視点の獲得や取組み意欲の向上など、好評な意見が多く見られた。

5. 考察及び今後の展開

Q-U アンケートは教職員にもなじみのあるツールであり、自殺予防の視点の提供は、教職員に負担感を与えず取り組んでもらうことが可能で、スクールカウンセラー等の支援者との情報の共有も目に見える形で行うことができ、学校全体で児童・生徒を支援する体制を作りやすいと思われる。児童・生徒本人の周囲に助けを求める力を高めるには、大人に関わってもらったことで気持ちが楽になったり、問題解決の見通しや手順を学ぶこと、自分はひとりではないといった肯定的な感情や状況を経験することが不可欠である。普段から複数で声かけを行うなど周囲が積極的に関わりを持つといった日々の学校生活での小さな積み重ねが、子どもたちの孤立感を低減したり安心感につながっていくのではないだろうか。アンケートの結果を踏まえ、今年度末を目途に完成した媒体を各校に配布予定である。引き続きスクールカウンセラーや養護教諭などへの研修を行い全校での実施に向けた体制を整えていきたい。